

広げよう福祉の輪！

三徳だより

第113号 2024年（令和6年）秋号

発行：社会福祉法人三徳会

<https://www.santokukai.com/>



平塚橋ホーム4階花壇
キバナコスモス

特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp

杜松在宅介護支援センター
〒142-0042 品川区豊町4-24-15 TEL.(代)03-5750-7707 FAX.03-5750-7709

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
障害者計画相談支援事業所
〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695

小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512

品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ・高齢者多世代交流支援施設「平塚橋ゆうゆうプラザ」
〒142-0054 品川区西中延1-2-8 TEL.(代)03-5750-3632 FAX.03-5750-3642 hiratuka-ow01@santokukai.com

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252

小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646

成幸ホーム

小林 すみ子 様 (99歳)

大正15年2月11日生まれ

長女様と長男様にお話しを伺いました。

母が成幸ホームにお世話になって3年近くになりました。母はホームに入所する前から「ホームで暮らすなら個室より皆さんがいる部屋の方がいいね」と話していました。それを聞いたとき、社会的で人のお付き合いを大切に母らしいな、と思いました。母は自宅にご近所さんを招いて食事会をしたり、いろいろな趣味を持っていたので、お仲間も多かったようです。社交ダンスや三味線、そして70歳を過ぎてからは書道を習い、身体を動かすことも好きで、卓球は長くやっていたね。

母は大正15年に生まれ新宿で育ちました。好奇心が旺盛で女学校時代にスケートもやっていたとか。当時、新宿伊勢丹にスケートリンクがあり、今から80年以上も前にスケートを楽しむなんて、ちょっと先を行く女学生だったのかも知れません。そして戦争のため館山に疎開し、そこで父との出会いがあり20歳で結婚。父は館山にある軍需工場の工場長をしており、母とは歳の差がありましたので、きっと父が見染めたのでしょうか。

戦後、私たちは父、母そして姉弟の4人で、品川区中延で生活をしました。母は私たちにいろいろな経験を与えてくれました。「カブスカウト」に入り、自然や社会と触れ合う体験をし、習字や絵画を習わせてくれました。母に手ほどきを受け、レース編みを一緒につくったこともあり、このような体験のひとつひとつから多くを学び、私たちを社会に出してくれことに本当に感謝しています。

この度、母は「白寿」になりましたが、ホームで生活するようになって、ますます元気になりました。人が好きな母が皆さんの輪のなかで楽しそうに笑っている光景が目に見えます。これからも元気で母らしい生活を送ることができるよう願っています。



戸越台ホーム

中村 ふみ子 様 (100歳)

大正13年10月25日生まれ

長女様よりご寄稿いただきました。

母は大正13年10月25日、岐阜で9人兄妹の末っ子として生まれました。今年で100歳になります。4人の兄妹が幼くして亡くなったこともあり、母は皆に可愛がられ、女学校まで出してもらったそうです。若い頃は岐阜県庁で働き、算盤が得意だったと、よく言っていました。その後27歳で結婚し、石川県へ転居し、長女と長男が生まれました。母が62歳の時に父が他界、その後上京し、品川区に住む私と同居を始めます。

品川区で暮らし始めて間もない頃、私が生まれたばかりの4匹の子猫を拾ってきた時は「私は猫が嫌いだ」と怒っていましたが、猫たちはすぐ母に懐き、いつの間にか世話をしてくれるようになりました。お陰で猫たちは20年の長寿を全うすることができ、母にはとても感謝しています。91歳頃迄は、体操やカラオケ、創価学会の活動にも参加する等、充実した毎日を送っていたようです。また、母と二人で熱海、箱根、稲取等の温泉にもよく行きました。そこで、カラオケで堂々と歌う姿を見て、思いもよらない母の一面を知りました。そんな楽しそうな母を見て、一緒に住んでよかったです、私も嬉しくなったことを覚えています。

92歳を過ぎてからは、外出も困難になりましたので、今ではよい思い出になりました。その後数年は訪問リハビリやヘルパーさんにお世話になっていましたが、97歳からは自宅での生活が困難となり、令和4年6月に戸越台ホームに入所しました。職員の皆様には日々母を支えていただき、本当に感謝しております。面会に行くと母はいつも笑顔で迎えてくれるので、穏やかな日常を送っているのだと、安心しております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



特集 敬老のお祝い



令和6年度の敬老式典はご家族と共にアットホームな雰囲気でお祝いしました。新型コロナウイルス感染症が5類になり1年以上が経過したこともあり、面会いただける機会も増えております。

そうした中でもやはりご家族と会えることで話が弾み、皆さま笑顔で写真に納まりました。「米寿」、「卒寿」、「百歳」、「百歳以上」を始めとするご利用者の皆さまが、元気で過ごしていただき、ご家族との面会ができますように願っています。

今回も様々な人生を歩んでこられた皆さまやご家族に、人生の思い出などのお話しを伺いました。

※各施設のお祝いの方々の人数は表のとおりです。

	米寿(88歳)	卒寿(90歳)	白寿(99歳)	新百歳	百歳以上
成 幸 (定員 80)	6	3	1	2	1
戸越台 (定員 72)	3	7	1	1	6
荏 原 (定員120)	9	7	5	2	5
平塚橋 (定員100)	5	3	2	2	4

荏原ホーム

澤田 ノブ 様 (102歳)

大正11年9月6日生まれ

長女様と次女様にお話しを伺いました。

母は大正11年9月6日宮前小学校の近くの戸越三丁目で生まれました。十人きょうだいの末っ子で実家は種苗店を営んでいました。祖父が早く亡くなったため、実家は貧しく、洗足学園に通っていましたが交通費を出してもらえず歩いて通学していました。家計を支えるため学校を中退し、住み込みで大森と池田山に女中奉公に出ていました。

いいなずけがいましたが、戦争で亡くなり父と25歳で結婚しました。父とは同じ年で嫁ぎ先の八百屋を継ぎ子どもを4人もうけました。私たちが小学生の頃、母の兄がやっていた金物屋からノウハウを教えてもらい、八百屋と同じ敷地内に金物屋をはじめました。仕事が好きで、浅草橋に仕入れに行ったりと、当時のことを楽しそうに話してくれていましたよ。家の中でも一番元気で、60歳を過ぎても階段で東京タワーのてっぺんまで登りみんなを驚かせたことを覚えています。色々なことに興味があり、仕事を引退した後も保育園や老人ホームにボランティアで絵本の読み聞かせを行っていました。その時には「成幸ホーム」にも行っていたようです。それ以外に、近所に編み物を習いに行っており、90歳を超えるまで家族みんなのセーターを編んでくれました。

私たちは皆、実家に通える場所に住んでおり、要介護状態になってからも子供たちきょうだいでローテーションをくみ、お互いに言いたいことを言い合いながら介護をしていました。八百屋は同居の長男の子どもが継いでくれ、母はそのことがとても嬉しいようで、その話をするととても喜ぶます。またこうやって家族が集まれる近くのホームに入居することができて本当に感謝しています。これからも毎週面会に行きます。お母さん、いつまでも元気に過ごしてくださいね。



平塚橋ホーム

伊藤 花江 様 (100歳)

大正13年7月14日生まれ

長男様よりご寄稿いただきました。

母は91歳まで生まれ故郷の長野県立科の実家で親戚や近所の人々に見守られながらひとりで過ごしていました。若い頃から好奇心旺盛で、何事にも積極的に取り組む母でした。また、近しい人を自宅に招き、お茶を飲みながら談笑するのが大好きでした。

母が上京後に、実家のタンスの整理をしていると「私の宝箱」と記された菓子箱が出てきました。その中には戦時中に陸軍病院の看護婦をしていた時の友人や負傷兵との写真や手紙。50歳の時、先頭にたつて興した地域ふれあいサークルの活動記録。そして還暦を過ぎてから町の要請で、夏季林間学校の看護担当を10年間引き受けた時に子どもたちから送られた可愛いイラスト付きのお礼の手紙の数々……。他にも、書道の師範免状やシルバー大学で日中交流に参加した思いで書き等々、その時その時を懸命に生きた証が入っていました。

母の生き方は、青春時代に叩き込まれた軍隊生活の基本そのものを実践していたと思います。「忠誠をつくす」「礼儀正しく」「武尊を尊ぶ」「信義を重んずる」「質素を旨とすべし」。戦時のことと言え、今の私が見習うことばかりです。

今年の100歳の誕生日には、施設のご厚意を得て、家族全員で記念写真を撮ることができました。コロナで会えなかった孫、ひ孫の成長に驚き喜ぶ様子を見て、少しは親孝行ができたと思っています。

施設長様をはじめ職員の皆さまに深く感謝申し上げますと共にこれからもよろしくお願いいたします。





アジアを結ぶ福祉の架け橋



インドネシア共和国とタイ王国の視察団が来訪されました



インドネシア共和国（保健省）

令和6年8月2日（金） 荏原ホーム

インドネシア共和国保健省総局代表団が表敬訪問にいらっしゃいました。三徳会では現在、6人のインドネシア出身の介護職員がおり、日々所懸命仕事に励みながら介護福祉士の資格取得を目指しています。

日本の介護や施設の説明後、来訪された皆様からインドネシアの職員へ生活の楽しみや喜び、働きやすさや苦勞などについての質問があり、なごやかな雰囲気の中、職員は母国語で笑顔を交えながら答えていました。日本語を習得し、着々とスキルアップしている職員たちの姿がとても頼もしく見えました。

見学は大規模改修工事中のため、すべての案内はできませんでしたが、見学中、浴室機器に興味を示され、使い方や機器による介護の負担軽減についてなど闊達な意見交換ができました。



タイ王国（労働省）

令和6年8月27日（火） 平塚橋ホーム

タイ王国労働省社会保障事務所研修部部長、社会保障事務所労働専門官、在東京タイ王国大使館労働担当官事務所職員、総勢19名の方々が平塚橋ホームに来訪されました。皆様は社会保障事務に従事されている公務員の方々と、品川区にタイ王国の大使館があるご縁で今回、このような機会をいただきました。

タイ王国でも高齢化が進んでいるとのことで、皆様方は熱心に施設内を見学し、居室や浴室の様子、特に見守りセンサーや移乗用リフトなどの機器類に興味を持たれていました。見学後も特別養護老人ホームの利用方法、費用、介護機器の金額など様々な質問があり関心の高さが伺われました。写真のレリーフはタイ王国の障害を持たれている方の作品で記念品としていただきました。

職員リレーエッセイ



平塚橋ホーム
生活サービス室
七尾 夏乃

先日横浜赤レンガ倉庫にて開催されていた「オクトバーフェスト」というイベントに参加してきました。「オクトバーフェスト」というのはドイツで開催されている世界最大規模のビールの祭典だそうです。あまりこういったイベントの情報を知らなかったり参加したりはしないのですが、幼少期からの友人に誘われ、今年で21回目の開催で私は初めて参加をし、またせっかくなので伝統的なお祭りの時に着ていくとされている「ディアンドル」という洋服を着ていきました。着慣れないものなので恥ずかしさもありましたが、「ディアンドル」自体がとても可愛くその時点で私の気分も上がっていました。

私自身元ビールはあまり好きではなかったのですが、飲みに行った際他の人に合わせビールを飲み続けた結果、美味しさに気づき今では飲みに行ったときの最初の一杯はビールを飲まない気が済まなくなっていました。年は取りたくない

ものですね。

オクフェスが平日でなかったこともあった為か、昼頃に行っても会場の内外にすごい数の人がいて驚きました。最初は飲み比べの物を注文し楽しんでいましたが、やはりグラスで飲みたくてすぐにおかわりをしました。そのうちにドイツ楽団の方が登場し、生演奏を聴きながら周りの人と一緒に盛り上がり、歌を唄ったり踊ったり乾杯して時間を過ごしました。お酒が入っていたこと、会場の雰囲気もあり周りの目を気にすることなく、とてもはしゃいで楽しみ、そんな私の姿を見ていた友人はとても喜んでいました。友人がいなかったらこんなに楽しいイベントを知ること参加することもなかったので感謝しかありません。連絡など面倒くさがる私ですが、今回だけでなく今までも色々なことに誘ってくれる友人なので、これからも大切にしていきたいなとしみじみ思っています。来年もオクフェスに参加するぞ！！